

<全体分析>

試験時間 75分

解答形式

選択, 記述, 論述, 計算

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・**増加**)難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・**難化**)

出題の特徴や昨年との変更点

平易な知識問題や選択形式の問題が減少し, 考察問題や計算問題が増加した。問題の総ページ数は, 昨年の17から25と大幅に増加し, 総論述字数も大幅に増加した。時間内にすべての問題を解き終えることができた受験生は少ないだろう。

その他トピックス

「生物」範囲からの出題割合が高く, 「生物基礎」範囲の問題はほとんどみられなかった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔I〕	選択 論述 計算	遺伝子頻度 ハーディ・ワインベルグの法則	生物		難
〔II〕	記述 論述 計算	配偶子形成 減数分裂・受精	生物	問2(2) 雌の3倍体メダカがY染色体をもつ配偶子を形成することに注意する。	やや難
〔III〕	記述 論述	生命の起源 光合成細菌	生物	問2(2) 藍藻から放出される酸素に注目する。	標準
〔IV〕	選択 記述 論述 計算	転写・翻訳 PCR法 相利共生	生物		標準
〔V〕	選択 記述 論述	ヒトの脳 発生 遺伝子の発現調節	生物基礎 生物	問5 「持続時間」の意味が解釈しづらい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・知識問題が多く出題されるので、基本的な問題で取りこぼさないようにすることが重要であり、全分野を通して、教科書を中心とした学習による基礎力の養成と標準的な問題演習が不可欠である。
- ・論述問題と考察問題で点数に差がつくので、論述答案作成の練習を行うとともに、問題演習を通じて考察問題に対応できる力を養っておく必要がある。